

February 2009

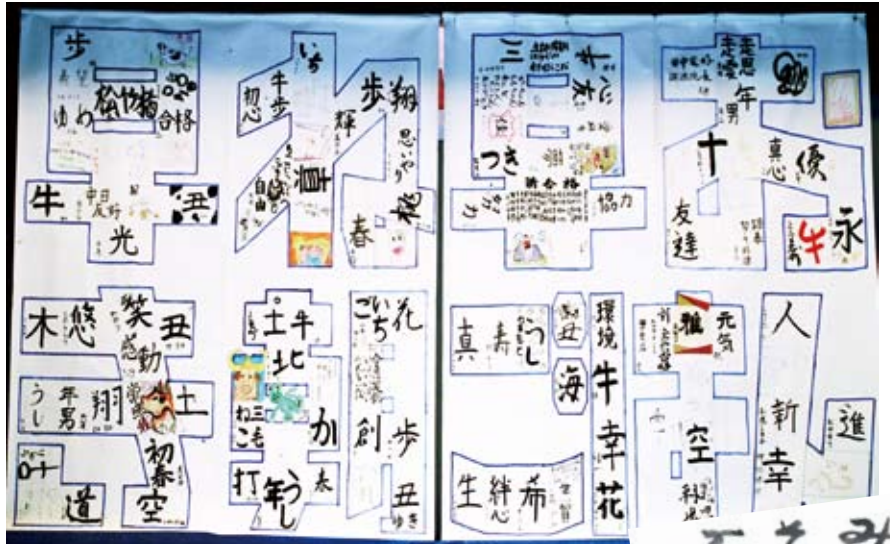
町の交差点 WIDE

地域のニュースは総務課
(☎65・1082)まで



弥栄区どんど焼き

1月11日、弥栄区で恒例の“どんど焼き”が行われました。弥栄区のだんど焼きは、毎年、成人式の前日に行われ、正月のメ飾りや破魔矢などがくべられた竹笹に火をつけられると、あっという間に5桁近い火柱が上がりました。参加者は、オレンジ色の炎を見守りながら、今年一年の無病息災を願いました。



「昨年は、不況不景気と暗いニュースばかりだったので、新年はみんなで力を合わせて“頑張ろう!”との思いで描きました。」という七福神の絵の書き初めも登場(右写真)



第7回 新年けいせん 墨と色の「かき初め大会」

1月4日、“グループShin”主催の新春恒例行事、“新年けいせん 墨と色の「かき初め大会」”が桂川町住民センターで開催されました。約120名による133点の書や絵などの寄せ書きが終わると、縦4桁、幅8桁の紙に「早ね早おき朝ごはん」の巨大な文字が浮かび上がりました。今回の言葉は、近年の子どもの学力の低下や様々な社会問題などに対し、「規律正しい生活が豊かな心を育む」との想いを込めて選ばれたとか。第2部では、松田習字教室(土師二)の松田珠光先生が、重さ数十キ口、長さ約1桁20字の大筆で6桁四方の紙に“牛歩”の大書を見事に書き上げ、見守っていた観客席からは完成と同時に、感嘆の声と拍手が沸き起こりました。



土師地区・土居二区で受け継がれる伝統行事“とへとへ”

1月14日の時折雪がちらつく夜、土師地区では“とへとへ”の掛け声とともに、法被に恵比寿などのお面をつけた格好(上土師地区・写真左)や、蓑笠姿の格好(下土師地区・写真右)の青年などが、“来訪の神”として各家々の今年一年の無病息災、家内安全を願いながら訪れた。“とへとへ”と唱えながら縄の先につけた“しょうけ(ざる)”を玄関口に差し込むと、家人は“しょうけ”の中の縁起物を受け取り、代わりに餅やみかん、お年賀などを入れる。そして、家人はバケツなどに用意した水をかけ、かけられた“来訪の神”は口々に「良い年でありますように!」と唱えながら帰って行く。子どもたちが家々を回る土居二地区では、水をかける習慣はないそうです。



土居二区の伝統行事もぐら打ち

1月14日、早朝4時30分。土居二区地域に「14日のもぐら打ち〜!」という力強い声と、竹竿の先を藁で覆った“打ち竹”で地面を叩く“バンバン!”という大きな音が響き渡りました。この日は、小学2年生から中学生までの子どもたち6名も参加し、各家々の幸福・無病息災などを願いながら、元気に地面を叩いて廻りました。